

視 察 報 告 書

報告者氏名：小室卓重

委員会名：教育福祉常任委員会

期 間：2019. 10. 23(水)～25(金)

視察都市等及び視察項目：

千葉県市川市：市川市立塩浜学園の小中一貫教育の取り組みについて

広島県広島市：認知症高齢者等保護情報共有サービス

(QRコードシールの活用実態について)

愛媛県西条市：小中学校 I C T 教育推進事業

所 感 等：

10月23日(水)、市川市立塩浜学園を視察に伺いました。小中一貫の義務教育学校です。9年間の義務教育を、小学校と中学校に分けず、1つの学校で一貫して行い、9年生の3月に、卒業します。

小中一貫教育は、

- 9年間を見据えた教育ができる
- 中1ギャップをなくす
- 1～4年生、5～7年生、8～9年生という発達に即した括りでの教育ができる

というメリットがあるとのこと。

もともと隣り合っていた塩浜小学校と塩浜中学校。学区を占める団地の高齢化で、子どもが減っており、1～6年生は単級となっています。よって、手厚い授業が行われています。例えば小学校の英語の授業では、1クラス25人の児童に対し、担任とALTとTTと中学の英語教員の4人が指導に当たるなど。その手厚さから、発達障害などの児童も多く在籍しているとのこと。また、地域にはスーダンなど外国籍の子どもも多く、取り出しでの日本語教育も行っているということでした。

私が注目するのは、コミュニティスクールとして地域と関わっていることです。学校運営委員会には地域住民も委員となっています。塩浜ふるさと防災科という独自の授業(教育指導要領の特例)では、ふるさと塩浜のまちを知り、高齢化したまちの防災の担い手となるべく、子ども主体で地域とつながる企画などが行われています。

孤立する子育てが児童虐待を引き起こし、ワークライフバランスは整わないまま子どもは孤食を余儀なくされ、独居の高齢者も増えている現状で、学校が地域に開かれ地域とつながることには大きな意義があると思います。学校のあり方は、転換期に来ていることを感じます。

同校は現在、塩浜小塩浜中の校舎を使っていますが、来夏には新校舎ができて、いよいよ一貫校としての環境が整います。



子ども主体の教育、地域で育む学校は、必要とされる未来スタイルだと思いました。



(塩浜中学校校舎玄関前にて)

10月24日(木)、広島市役所を訪れ、認知症の方を守るためのQRコードシールの活用実態について、お話を伺いました。

高齢化社会を、安全安心に生きることは、誰もが望むことです。認知症のおじいちゃんおばあちゃんが行方不明になったとき、気付いてくれた人から連絡をもらえたら、どんなに安心できることでしょう。

広島市認知症高齢者等保護情報共有サービス(どこシル伝言板)は、QRコードのシールを衣服などに貼っておくことで、気付いてくれた人とインターネット上の伝言板でやりとりできるシステムです。行方不明中に事故にあつて怪我をしたり、場合によっては命を落とす可能性さえありますから、様々な手段で早くご家族のもとに帰れるのは大切なことです。

一方で、この仕組みがまさにレットテル貼りとなる可能性もあります。年をとっても、認知症になっても、命と尊厳が守られることもまた大切だと思います。

年を取らない人はいないから、いずれは自分も見てもらう側になる。便利な仕組みとともに、認知症サポーター養成講座などをもっと進めて、認知症への理解者を増やすことで、社会全体に安心が広がると思います。

共創未来

はいかい高齢者等SOSネットワークに登録される皆様へ

広島市認知症高齢者等保護情報共有サービス

どこシル伝言板®

どこシル伝言板®とは?

衣服や持ち物等に貼ったQRコードを読み取ると、インターネット上の伝言板が表示されます。QRコードの読み取り時や伝言板への書き込みがあった際など、保護者へ即時にメールが送信されます。伝言板のやりとりでは個人情報を開示することなく「発見〜保護〜ご家族への引渡し」まで安心、安全、迅速に行えます。

大変! おばあちゃんが
いなくなつた!

何かお困りの様子…
衣服のQRコードに
アクセスしてみよう

発見者

伝言板に
アクセス

自動メール受信

ご家族

おばあちゃんか
みつかった!

厚紙等に専用の
QRコードラベルを
貼付けておく

この画面は保護者と
発見者のみが見ることが出来ます

24時間 365日
無休で連絡が取れる!

どこシル伝言板®の特徴

- 耐洗ラベルと蓄光シール**
家庭用洗濯機で200回以上の耐久性がある耐洗ラベル、反射材と薄いライトが照れても、自ら発光する蓄光シールをご用意。
- 引取りまでのご本人のストレス軽減**
事前に身体的特徴や既往症、保護時に注意すべきことなどを登録しておくことで、発見者がQRコードを読み取った際、対応方法がわかるようになっています。引取りまでの間、ご本人がストレスなく安心に過ごしていただくことができます。
- 発見〜引取りまで迅速に**
発見者によるQRコードの読み取り、現在位置の送信やご本人の状況の入力があれば、即時にご家族(事前登録の最大3名)へメールが送信されます。夜間でも緊急連絡が来るため、24時間365日やりとりが可能です。
- ご本人への声かけをスムーズに**
ラベルやシールにはQRコード・連絡番号・自治体名とロゴマークが記載されています。認知症の方だと気づいてもらいやすく、発見者が声をかけるきっかけになります。
- 特別なアプリ等は必要なし**
特別な装置やアプリ等は必要ありません。登録〜伝言板のやり取りまでスマートフォンさえあればすべてのやりとりが行えます。
- 個人情報は表示されません**
伝言板を使用してやりとりの際、個人を特定する情報は表示されません。氏名や住所、連絡先の記載は不要なので、個人情報の漏洩の心配はありません。

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です

お問い合わせ先

中区	☎082-504-2586	東区	☎082-568-7731
南区	☎082-250-4109	西区	☎082-294-6289
安佐南区	☎082-831-4568	安佐北区	☎082-819-0587
安芸区	☎082-821-2810	佐伯区	☎082-943-9728

広島市健康福祉局高齢福祉部地域包括ケア推進課 ☎082-504-2648

10月25日(金)、西条市役所で、小中学校ICT教育推進事業について説明を聞きました。

ICT教育というと、電子黒板やデジタル教科書、児童生徒用タブレットPCなどが思い浮かぶところですが、「遠隔合同授業(バーチャルクラスルーム)」は興味深い取り組みです。

509km²の面積に人口11万人の西条市。人口過小地域では、複式学級となっている小規模校もあります。小規模校ではきめ細かい指導ができるとのメリットがありますが、一方、集団の中での多様な考え方や見方に触れる機会が少ないというデメリットがあげられます。

そこで、別々の学校の少人数クラス同士がバーチャルクラスルームを実施。相手側のクラスの様子が教室内に投影され、あたかも同じ場所にいるような環境を作り出します。

子どもたちへのアンケートでは、「自分たちのクラスだけでは出てこないような意見を聞くことができた」と91%が答えています。

もともとは、中一ギャップの解消が目的だったそうですが、それ以上の成果となっています。

横須賀市でも、人口減少と少子化で小規模校はあり、これまでも小中学校の統合が行われてきました。しかし、西条市では現在、統合との考え方はないとのこと。バーチャルクラスルームという新たな選択肢のおかげです。子どもたちが、統合による遠距離通学を強いられず、地域で育つことのできる良い取り組みだと思いました。(写真は、システム提供元のリコージャパン(株)HPから)

